研究論文

教育システム情報学会誌　Vol. 43, No. 2　2026
pp. 125–134

特集：高度な対話による先進的な教育・学習システム

# 道徳科の授業におけるAI意見提示が児童の多面的・多角的思考の促進に与える影響
## ——小学校5年生「手品師」の実践を通して——

江添　光城[*1, *2]，後藤　正樹[*1]，高木　正則[*2]

# The Effects of AI-Generated Opinions on Promoting Multi-Faceted and Multi-Perspective Thinking in Moral Education
## —A Practice-Based Study Using "The Magician" with Fifth-Grade Elementary School Students—

Mitsushiro Ezoe[*1, *2], Masaki Goto[*1], Masanori Takagi[*2]

This study investigated the effects of presenting AI-generated opinions on promoting multi-faceted and multi-perspective thinking in fifth-grade elementary school moral education classes, using "The Magician" as teaching material. An Analysis of textual similarity in students' written responses and questionnaire data suggested that students positively accepted AI-generated opinions, which facilitated multi-faceted and multi-perspective thinking and enabled judgments based on diverse value systems. This research demonstrates the potential for utilizing AI in moral education.

キーワード：道徳，生成AI，モラルジレンマ，多面的・多角的思考，文章類似度

## 1.　はじめに
### 1.1　研究の背景

2017年の小学校の学習指導要領改訂に伴い，道徳科の目標が，「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる」[1] と定められた．この改訂により新たに「物事を多面的・多角的に考え」という文言が加わった．学習指導要領解説 [1] では，物事を多面的・多角的に考えるための指導について「物事を一面的に捉えるのではなく，児童自らが道徳的価値の理解を基に考え，様々な視点から物事を理解し，主体的に学習に取り組むことができるようにすることが大切である」として，「例えば，発達の段階に応じて二つの概念が互いに矛盾，対立しているという二項対立の物事を取り扱うなど，物事を多面的・多角的に考えることができるよう指導上の工夫をすることも大切である」と記載されている．この多面的・多角的思考について，諸富は「さまざまな立場の人にとってみて，総体的に，よりベターな，次善の解決法はどうすることか」を考え抜くことであるとし，「考えつく限りの可能なあらゆる立場に立つことを想定して，かつ，考えつく限りの可能なあらゆる場合を想定して，ものを考える」ことであると説明している [2]．

このように多面的・多角的思考を育成することは，児童生徒が自己中心的な見方から脱却し，他者の立場や感情を理解する力を養うとともに，より豊かな価値観を形成し，道徳的な判断力や実践意欲を高めることを目的としている．しかし，2022年に文部科学省が小・中学校の教員に対して実施した道徳教育実施状況調査では，学校現場での道徳科の授業を実施するうえでの課題として，「物事を多面的・多角的に考えるた

*1 株式会社コードタクト（codeTakt Inc.）
*2 電気通信大学大学院情報理工学研究科（Graduate School of Informatics and Engineering, The University of Electro-Communications）
受付日：2025年6月12日；再受付日：2025年10月9日；採録日：2025年12月9日